

巻頭言 「猫の世界観」

宇野 元

『ギレアド』の人々の間に、独自の風格をそなえた猫のソーピーがいます。ジョン・エイムズ牧師は、息子への手紙のなかで、私たち人間が世界をみる目の不完全さを語りながら、猫にも猫の世界観があるだろう、とといいます。猫は猫の頭でものごとを考える。それはそれで興味深く、立派な世界観だ。しかし私たちが私たちの理解を超える現実に包まれているように、猫の状況判断も現実にはおおきく届かない……

「社会が混乱に陥れば、ぼくらと同様、ソーピーもイデオロギーの対立の犠牲になるだろう。ソーピーは猫流に状況を判断するだろう。でもそれは、プロレタリア独裁や、マンハッタン計画とはなんの関係もないだろうね。」

一見さりげなく言及される二つの歴史的事例には含蓄があります。後者は第二次世界大戦時にアメリカにおいて、イギリスとカナダの支持のもとで秘密裏に遂行された原子爆弾の開発プロジェクト。人間の世界においては、どんな思想や立場や主義のもとでも、非人間的な現実を生みだしうることを示しています。鋭敏なエイムズ牧師の背後に、作者マリリン・ロビンソンの、自国にたいする思慮深い態度をうかがうことができます。

猫の世界観を述べたあと、エイムズは自分がした説教にふれます。聖書のテキストはイザヤ書 55, 8。「わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり、わたしの道はあなたたちの道と異なると、主は言われる」。どんな内容の説教であったのでしょうか？

こんなふうに想像できるでしょう。猫が猫の頭で考えるように、私たちも人間流に考える。しかも、私たちの頭は、ソーピーの頭とそれほど大きく違うわけではない。どんな世界観にも欠陥がある。そればかりでなく、私たちの頭と心はせまく、いとも容易に自らのイデオロギーに捕えられやすい。そして、もし私たちの現実がこの現実だけであるなら、私たちはますます深い淵に陥らざるをえないだろう。しかし、神の思いは私たちの思いと異なる。

私たちの思いと異なる神の思いとは？ 御子の派遣にそれが証されています。そして「私たちの理解を超える現実」は、私たちのちぐはぐな世界と私たち自身を担う、イエス・キリストによるゆるしと、新しい命の現実です。